様式３－２

令和 5 年 9 月 1 日

令和5年度　結果の分析及び今後の改善策（案）

（ 中間・最終 ）

呉中央中学校区　校番13　呉中央中学校

重点	d 中期（3年間）経営目標	e 短期（今年度）経営目標	l 結果の分析（結果と課題をこう考えます）	m 今後の改善策（案）（こう改善します（案））
★★★	貫 生ききる根っこを育てる「豊かな学び」の創造	貫 「主体的，対話的で深い学び」の実現と基礎・基本の定着を図る。	教科の学習について，「授業で思考し表現している」生徒の割合は88％であり，目標を2ポイント下回った。学年ごとに見ると，目標値を上回っている学年もあり，学年間の数値の差が大きいことに課題がある。（7年95.7％，8年80.1％，9年90.0％） 「学力調査・定期試験（国・数・英）における通過率30％未満の生徒の割合」は10％で，9％以下という目標を達成できなかった。これは，全国学力・学習状況調査の結果が大きく影響した数値となっている。定期試験のみで数値を見ると8.4％であり，目標を達成している。Qubena等ICTの活用に効果が見られた結果であると考えられる。 「各学年の家庭学習目標時間の達成率」の割合は67％で，目標を2ポイント上回っている。しかし，呉中央スタンダードの活用については学年によっては低い数値となっている。	授業では，生徒が「思考」し「表現」する場面を教師がさらに仕組んでいく必要がある。ロイロノートをはじめとするICTの効果的な活用についても職員間で情報共有しながら，日々の授業に生かしていくことで，思考力・表現力の向上を図る。 基礎学力の定着に向けては，授業の充実とともに，Qubenaを活用した放課後学習や，少人数での補充学習などを引き続き行っていくことで目標値を達成できるようにしたい。 家庭学習については，呉中央スタンダードがしっかり活用できるように，学級担任が家庭と連携しながら生徒への支援を行っていきたい。
★★	貫 生ききる根っこを育てる「豊かな生き方」の創造	貫 「自己指導能力」を高める。	自己の振り返り，自己認識として「自分には良いところがある」82％「安心できる居場所がある」95％「先生に相談できる」87％とアンケートで肯定的な評価をした生徒はどの学年も8割以上は見られたものの，8学年の生徒が他学年に比べ，自尊感情が低い様子が顕著に表れている。行事や日々の学校生活の中で達成感や自己有用感につなげていく指導が今後の課題である。 「あいさつ」「返事」「時間」「掃除」に関するアンケートに肯定的な評価をした生徒の割合は94％で，目標値に達していないが，教員の実感として昨年度からの向上が見られるため，生徒自身の意識の向上の結果とも考えられる。ただし掃除の取組に関してはアンケート結果と同様に課題があり，取組の質を向上させる必要がある。	生徒の状況や指導支援について，学年のみならず，生徒指導連絡会をはじめとした，全教職員の情報共有を図り，個に応じた指導の徹底を継続的に行っていく。校則の見直しや行事運営など，「生徒の主体性」を生かした学校づくりをすすめる。2学期は数年ぶりに文化祭を通常開催する。この機会を用いて生徒それぞれが輝く機会を創出していく。 「あいさつ」「返事」については，教員の気づき，声掛けが大切となる。教員自身の意識向上のための研修機会を設けたい。清掃活動については，第2回の掃除ガイダンスを行い，責任感の育成につなげていく。
★	貫 生ききる根っこを育てる「しなやかな体」の育成	貫 基本的生活習慣の定着と体力･運動能力の向上を図る。	前年度よりも記録が伸びた生徒は，50m走では，男子88.0%，女子76.3%，20mシャトルランでは，男子98.0%，女子82.1%であった。コロナ禍による運動機会減少の影響はあまり感じられなくなった。女子は例年よりも運動部加入率（61%）が高いことも影響している。目標値は大幅に超えることはできたが，全国平均との比較では，当該種目で男女とも下回っており，7学年時よりもその差が広がっている。 遅刻については，複数回繰り返した生徒の人数が7年生17人，8年生11人，9年生22人であった。遅刻の背景には様々な事情があるが，生活習慣の乱れから寝坊をするというよりは，登校時間の終了間際に駆け込もうとして遅刻をするなど，時間を守る意識の希薄化が多く見られる。生徒への指導と保護者との連携による両面からの改善を図っているが,遅刻を繰り返す生徒の中には保護者との連携効果が見られない場合もあり,アプローチを生徒の実態に合わせて変えていく必要がある。	体育大会やクラスマッチの実施など，運動に親しむ機会を増やすとともに体育授業や部活動においても運動の強度を意識し，引き続き走力を高める運動を継続的に取り組む。 生徒指導連絡会の中で遅刻に関する情報共有を行い，部活顧問や授業担当など，担任以外からの指導の方法も模索していく。生徒の繰り返す「遅刻」に関して教員が慣れないことが大切であり，根気強く，継続した取組を行う形づくりを行う。

業務改善	貫 業務改善を進め，元気で明るい職場を実現する	貫 生徒と向き合う時間を確保する。 貫 長時間勤務の縮減を図る。	生徒と向き合う時間については，昨年度同時期の78%をかなり下回っている。行事の再開や精選のための検討時間(会議)が多かったためだと考えられる。 時間外勤務が45時間以下の教職員の割合は，月ごとの状況を見ると徐々に増加しているので，定時退校の呼びかけを継続する。	定時退校の呼びかけに合わせ，毎週水曜日を一斉定時退校日と設定し，より計画的かつ効率的に仕事を行うことにより，生徒と向き合う時間を確保することにつなげる。 分掌や学年等の仕事の割り振りを見直し，業務の分散と簡略化につなげる。